

| | | | |
|---|------------------|----------------------------|---|
| 授業科目名： 現代東アジア特論（ロシア） Contemporary East Asia (Russia) | | | 担当教員名： 新井 洋史 Hirofumi Arai |
| 選択必修： 選択 Elective | 単位数： 2 | セメスター： 後 Fall | 開講言語： 日本語 |

ディプロマポリシーとの関連：

| | | |
|---------|--------|---------------|
| 国際社会の知識 | 政策分析能力 | 英語コミュニケーション能力 |
| ● | ● | |

○授業の到達目標及びテーマ

ロシアは世界最大の国土面積を持ち、国連安全保障理事会では常任理事国の地位を占める大国です。その大国が2022年2月に隣国ウクライナへの侵攻を開始したことは、世界に大きな衝撃を与えました。その後は、世界の分断が一層深まる傾向にあります。と同時に、日本にとっては最も近い隣国であり、好むと好まざるとに関わらず、無視できない存在です。

にもかかわらず、我が国においてロシアという国を知ろうとする関心は高いとはいえ、ともすると「ロシア＝悪」といった先入観に基づいた理解が独り歩きしがちです。東アジアの隣国同士である日本とロシアの関係が破綻することを避け、安定した関係を築くためには、相手国の良い面・悪い面を十分に理解する人材が双方に必要です。

そこで本授業では、ロシアを相対化して観察する目を持つこと、及び、現代ロシアの政治、外交、安全保障、経済、社会についての学術的に裏付けのある知見を得ることを目標とします。

○授業の概要

本授業では、1991年の成立以降、30年強の歴史を持つ現代の「ロシア連邦」を対象とします。

成立当初の新生ロシアは、国際社会においてはそれまで存在していた旧ソ連を継承する立場でありつつ、国内では旧ソ連型のシステムと決別して市場経済への移行や政治の民主化といった急進的な改革を進めるといった難しい課題に取り組みました。理想の国を作ろうとする希望を持って進められた改革の多くは、国内外の現実との妥協というプロセスを通じて、停滞や方針転換、後退を余儀なくされました。

その結果、足元では、終わったはずの「東西冷戦」の再来が論じられるような状態になってしまっています。とは言え、2025年現在のロシア連邦は、1991年までのソ連とは全く異なる国であることも確かです。ロシア国民は何を目指し、何が実現できて、何が実現できなかったのか。何故、多くの人々が期待した姿を実現できなかったのか。こうした問題意識を持ちつつ、ロシアの政治、外交、安全保障、経済、社会の各側面を捉えていきます。

本授業は、各回の担当学生がテキスト（または配布資料）の担当箇所の内容を報告し、それに対して受講生全員で議論する形で進めます。使用するテキスト・資料等は、受講生の興味関心等を踏まえて選択し、また報告回数については受講人数に応じて調整する予定です。

○授業計画

第1回 オリエンテーション

受講生の興味関心事項などを確認しながら、以下の授業計画を肉付けしていきます。そのプロセスの中で、授業計画を変更することもあります。

第2回 ロシアの歴史

現代ロシアを理解する前提として、ロシアの成り立ち以降の歴史を概観し、さらにロシア連邦成立以降の現代史を学びます。

第3回 国土と人口

世界最大の国土を持つロシアにおける居住人口分布の特徴を把握します。また、ロシアが多様な民族から構成される国家であることを確認します。

第4回 ロシア社会

ロシアの社会的側面、すなわち生活水準、人口動態、保健状況、教育などに注目し、これらの分野の現状や政府の政策を概観します。

第5回 政治および政府

ロシアの政治制度や統治機構がどのようになっているかを学ぶほか、ロシア連邦成立後の政治権力をめぐる動きをたどります。

第6回 ロシア経済

新生ロシア成立後の資本主義・市場経済への急速な移行プロセスとその帰結や影響を確認します。さらに、2000年以降の経済の浮き沈みや、政府の経済政策をたどります。

第7回 人権、自由、市民社会

ロシア連邦憲法には、基本的人権や自由などが規定されていますが、憲法の規定と社会の現実には大きな乖離が生じています。

第8回 文化とメディア

ロシアのナショナルアイデンティティをめぐる議論の他、現代文学、映画、音楽などの状況に触れていきます。

第9回 ロシアと世界

ロシアの外交史をたどり、西側諸国、旧ソ連諸国などとの関係の変化について考察します。

第10回 ロシアの安全保障観

ロシアは、西側諸国に潜在的脅威を感じつつ、旧ソ連諸国などを「勢力圏」とみなして影響力を及ぼすことで、自国の安全保障を確保しようとしているといわれます。

第11回 エネルギー大国・ロシア

世界最大級のエネルギー資源輸出国であるロシアは、エネルギー資源を外交上の武器として使っていると言われてきました。他方で、西側諸国は、ロシア経済のエネルギー依存を弱点と見て、対ロシア制裁を実施しています。

第12回 極東開発政策とアジア太平洋戦略

西側との関係が悪化する中で、ロシアは慌ててアジアシフトを強めているように見えますが、実は東方への思い入れは長い歴史を持っています。

第13回 日ロ関係

日ロ関係を大きく規定しているのは北方領土問題です。両国間の国境がどのような変遷を経て、現在の状況に至ったのかの経緯をたどります。

第14回 2025年のロシア経済

直近のロシア経済のパフォーマンスを確認します。

第15回 総括：ロシアをどう見るか

プロパガンダに惑わされずにロシアの実像を見るためにはどうすればよいか。講師自身も悩む難しい課題ですが、受講生の皆さんと一緒に考えたいと思います。

○テキスト

初回授業において、いくつかの図書を提示して、受講生と相談したうえで、いずれを教科書として採用するかを決定します。これとは別に、特定のテーマについての学術論文やシンクタンクレポートなどの文献を用いることもあります。

日本語または英語の文献を用いるため、ロシア語能力は必要ありません。

○参考書・参考資料等

同上

○学生に対する評価

授業への参加態度 20%、担当した報告の内容 40%、期末レポート 40%

○オンライン授業に切り替えた場合の授業形態

授業形態：オンライン授業（リアルタイム配信型）